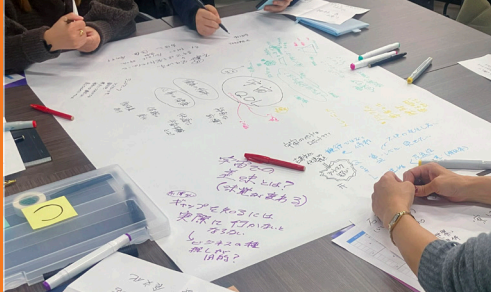




2025 Annual Report

Human
Centered
Design
Organization



アニュアルレポート2025 2025年度 (2025年4月1日～2026年3月31日)

特定非営利活動法人
人間中心設計推進機構 (HCD-Net)



目次

これからの20年に向けて:「HCDの未来」への布石となる1年に	1
広報社会化事業部	3
教育事業部	4
ビジネス支援事業部	5
研究事業部	6
関西支部	7
東海支部	8
特別プロジェクト	9
HCD 専門資格認定センター	10
HCD 倫理規定検討ワーキンググループ	11
ウェブワーキンググループ	12
ピックアップイベント	13
イベント一覧	14
決算報告 2025年度 活動計算書	16
2025年度 計算書類の注記	17
2025年度 貸借対照表	18
2025年度 財産目録	19
組織図/正会員数推移	20
役員一覧/賛助会員一覧	21

本Annual Reportに記載の人物名はすべて敬称略としています。
また、会社名、各製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

これからの20年に向けて： 「HCDの未来」への布石となる1年に

特定非営利活動法人 人間中心設計推進機構(HCD-Net)理事長 井登 友一

1. 20周年の地層の上に立ち、次なる20年を展望する

HCD-Netは2025年度、設立20周年という大きな節目を迎えました。日本の産業界において、製品やサービスが「機能」や「技術」の優位性だけで語られていた時代から、「人間(ユーザー)」を起点とした価値創造へとパラダイムが大きく変化したこの20年。その歩みの中心には、常に本機構の諸先輩方が築き上げてきた知見と、たゆまぬ実践の積み重ねがありました。

私は、前理事長の篠原稔和氏をはじめとする歴代の理事長がつないできたバトンを受け継ぎ、この記念すべき節目の年を経て、次の一步を踏み出す重責を、今改めて深くかみしめています。昨年度、私はドナルド・ノーマンが近著において提唱した「人間性中心デザイン(Humanity Centered Design)」への視座の拡張について言及しました。ノーマンはこの概念を、単なる「個人の利便性」を追求するHCDの枠組みを超え、社会、環境、そして人類全体のウェルビーイングを射程に捉えています。20周年を迎えて私たちが立つ現在地は、「HCDを普及させるフェーズ」を経て、「HCDを社会のOSとしてどう機能させ、持続可能な未来をどうデザインするか」を問われるフェーズにあります。

2026年度は、その「20周年のその先」に向けた、まさに未来への布石を打つ1年となります。これまでの20年で先人たちが積み上げてくれた強固な地層を踏みしめながら、私たちはより広範で、より深い責任を伴うデザインの領域へと足を踏み出さなければなりません。

2. 「存在論的デザイン」が突きつける新たな問い

先般、機構誌20周年記念号の巻頭言(『人間中心設計』第21巻 第3号 1-2頁 ※)でも触れましたが、現代のデザインを取り巻く環境は、かつてない転換期にあります。アン＝マリー・ウィリスが提唱し、人類学者アルトゥーロ・エスコバルらが展開した「存在論的デザイン(Ontological Design)」という考え方は、私たちに重要な示唆を与えてくれます。それは、「人はモノ(人工物)をデザインするが、同時に自分がデザインしたモノに自分自身がデザインされ返される」という、ヒト・モノ・環境の相互依存構造を示すものです。

私たちはこれまで、人間にとって都合のよい環境を自在に構築できると信じてきました。しかし、未曾有の自然災害や、人(顧客)を欺き不利益をもたらす「ダークパターン」といった問題に直面し、デザインがもたらす負の側面やその責任を痛感せざるを得ません。デザインの影響力が産業界のみならず社会全体へと拡大し続ける今、私たちが果たすべき「責任」と「倫理」の重みは増す一方です。

生成AIの台頭などにより、造形や最適化のプロセスがますます自動化されようとしている今、HCDを専門職能として有する私たちが向き合うべきは、単なる合理性の追求だけではありません。私たちがデザインしたモノが、どのような環境を構成し、それによって人間がどのように変容していくのか。その「意味」を問い直し、人と社会の幸せ(ウェルビーイング)のために、正解のない世界を深く見渡し、感じ取る「炭鉱のカナリア」としての役割が求められています。

※ https://www.jstage.jst.go.jp/article/hcd/21/3/21_1/_article/-char/ja

3. 次期中期計画に向けた4つの指針：人間中心デザインの未来を拓くために

こうした時代の要請に応え、HCD-Netが社会的な公器としてさらなる進化を遂げるため、理事会では2026年度から2028年度までの次期中期計画の策定に向けた議論を開始しています。現段階で重視しているのは、具体的な施策の羅針盤となる以下の4つの大きな指針です。

① HCDコンセプトの再定義と多元的なデザイン観の探求

従来の規格や基準に準拠するだけでなく、変化し続ける社会背景に合わせたHCDの領域と範囲を再考していく必要があります。特に生成AI時代において、専門家がどのような価値を社会に提供すべきかという問いを深めます。近代的な「人間中心」の枠組みを、より多元的なデザイン観へと接続していくプロセスは、今後の私たちの重要なテーマとなるでしょう。

② 学術団体としての正統性(オーセンティシティ)の追求

HCD-Netが学術研究団体として、より高い次元で知を編み出し、社会へ還元できる体制を整えることを目指します。実務家と研究者が互いに刺激し合い、高度な循環を生み出す場としての機能を高め、学術的・社会的なビジビリティを向上させていくための議論を進めます。

③ 社会・産業への実質的な寄与と影響力の拡大

デザイン経営への関心の高まりや、DE&I(ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン:多様性、公平性、包摂性)への社会的要請に対し、団体としてどのような姿勢を示し、役割を果たすべきかを追求します。高度専門職としてのHCDプロフェッショナルが、経営層や社会の意思決定層に対していかに寄与できるか、その道筋を模索します。

④ 持続可能な組織基盤の構築と「共創」の活性化

1,400人を超える会員数と約60社の賛助会員という大きなコミュニティが、いかに持続可能で強固な基盤を築けるかが課題です。特にこれからの20年を担う若い世代が、その美的感性と専門性を存分に発揮できるようなエンパワーメントの仕組み作りが不可欠です。多様なバックグラウンドを持つ人々が越境し、刺激し合える「共創のプラットフォーム」としてのあり方を再定義していきます。

4. 「誠実さ」という専門性を携えて

私たちが対峙しているのは、利便性の追求が時として人間の自律性を損ないかねないという、不確実でリスクを孕んだ時代です。だからこそ、今改めて「HCD」の最初に掲げられている「Human(人間)」の意味を、深く捉え直さなければなりません。

デザインは、人々のウェルビーイングに寄与するための「祈り」に似た意志の表明です。アルゴリズムが人々の選択を規定し、効率性が優先される世界において、人間が人間らしく、自律的に生きるための「余白」をいかに守り、デザインするか。HCD-Netの会員である皆様に期待したいのは、手法としてのHCDをなぞるスキル以上に、こうした問いを持ち続ける「倫理的な誠実さ」です。

25年以上前、HCDがまだ常識ではなかった時代に、その重要性を信じて道を切り拓いてこられた先達の皆様が示してくれた「未来を信じる力」を、今度は私たちが受け継ぎ、次の世代へとつないでいく番です。

5. 結びに代えて:共に未来を編み出すために

本アニュアルレポートに記録された2025年度の活動の数々は、会員一人ひとりの情熱と献身の賜物です。しかし、20周年という大きな山を登りきった後に広がるのは、さらなる険しさと、それ以上に大きな可能性に満ちた新天地です。

20周年を超えた2026年度、私たちは文字通り「新しいスタート」を切ります。これまでの伝統を尊びつつも、それに安住することなく、若い世代の瑞々しい躍動と、多様な専門性を持つ人々との知的な共創を一層加速させていきたいと考えています。

次期中期計画を見据えたこれからの期間は、HCD-Netの真価が問われる、未来への布石を打つ時期となります。私は理事長として、皆様が誇りを持って「私はHCD-Netの会員である」と言えるような、そして社会から「HCD-Netは、より良い未来を探索し続けるための開かれた羅針盤である」と信頼を寄せいただけるような共創の場を、皆様と共に創り上げていきます。

次の新たな20年に向けて、私たちが生きてゆく世界が今より少しでも良い状態に向かい続けられるよう、人間だけでなく、それを取り巻くあらゆる存在との関係性を丁寧に見つめながら、共にデザインの力を信じ、歩みを進めていきましょう。本年度も、皆様の積極的な参画と変わらぬご支援を、心よりお願い申し上げます。

広報社会化事業部

広報社会化事業部は、HCD-Net全体の広報活動を統括する部門です。当部門では、HCD-NetフォーラムやHCD-Netサロンといったイベントの企画・運営をはじめ、HCDに関する優れた実践を表彰するHCD-Net AWARDを主催しています。また、当機構の活動を紹介するアニュアルレポートや会員向けパンフレットの制作、HCDライブラリーなどの書籍出版を通じて、多角的な情報発信にも取り組んでいます。

2025年度の活動

● 広報社会化事業部の体制の更新

2025年度は、広報社会化事業部において、今後のさらなる発展を見据えた組織体制の見直しを実施しました。

・ HCDライブラリー編集委員会の発展的解散

HCDライブラリー第6巻の刊行をもって全7巻シリーズが完結したことに伴い、長年にわたり当機構の出版活動に多大なる貢献を果たしてきた「HCDライブラリー編集委員会」を発展的に解散しました。同委員会の活動はこれにて一区切りとなりますが、今後新たな出版企画が生じた際には、改めて委員会を組織する予定です。

・ 広報委員会の新設

新たな取り組みとして「広報委員会」を発足しました。これまで当事業部は、HCD-Netフォーラムやサロンといったイベント運営、ならびにアニュアルレポートや書籍刊行などの制作活動を主軸としていましたが、今後は、HCD-Netの日々の活動をよりタイムリーかつ広く社会へ発信していくため、広報機能をさらに強化していきます。現在は、2026年度からの本格始動に向けて具体的な活動計画を策定中です。

● HCD-Net AWARD

HCD-Net AWARDの表彰制度を見直しました。従来は特に優れた事例に賞を授与してきましたが、受賞事例にのみ注目が集まってしまうという課題がありました。そこで本年度より、新たにグッドプラクティス認定制度を導入しました。この制度により、HCDに関する優れた取り組みを、まずはグッドプラクティスとして広く公開・共有し、その中から特に卓越した事例を表彰する仕組みに改定しました。これにより、アワードが本来目指している「HCDの優れた実践事例を社会へ発信する」という目的を、より効果的に達成できると考えています。本制度の詳細については、募集要項のページをご覧ください。

● 広報社会化事業部主催のイベントについて

例年開催しているHCD-NetフォーラムやHCD-Net AWARD関連イベントのほか、水本副理事長による特別プロジェクトなどを実施しました。

2025年度はHCD-Net設立20周年という節目の年であったことから、HCD-Netフォーラムでは20周年に関連するセッションを多数開催しました(※)。また、特別プロジェクトにおいては、地方でのHCD普及に向けたイベントや、ユニバーサルデザイン・インクルーシブデザインに関するイベントなど、多岐にわたる活動を展開しました。各イベントの詳細については、イベント情報をまとめたnote(※)をご覧ください。

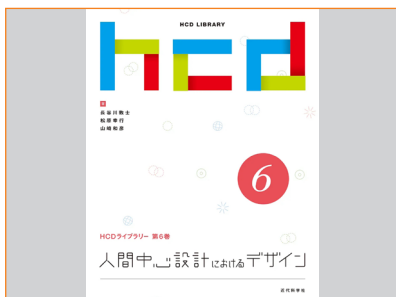
※詳細は、以下からご覧いただけます：

HCD-Netフォーラム2025開催レポート【11月14日(金)、15日(土)】

https://note.com/hcdnet_event/n/n379d3d5ffc43

イベント情報をまとめたnote

https://note.com/hcdnet_event



HCDライブラリー第6巻



HCD-Netフォーラム セッション3: AI時代を生きるデザイナーのための創造力と共感性 ~人間にしかできない価値をデザインする~



HCD-Net AWARD Special Session「動機的设计」 in 大阪 講演: 由井 真波

教育事業部

教育事業部のミッションは、HCD/UXDに関する知見の体系化と、その教育機会の提供です。具体的な活動として、専門的な知識や効果的な学び方を提供するセミナーなどを企画・運営しています。2024年度からの新たな取り組みとして、イベントやセミナーの参加者同士が互いに「学び合う」ための仕組みづくりと、機会の創出といった試みも始めました。

2025年度の活動

● 学びをつなぐ

教育事業部の定番講座として、長年培ってきた知見を次世代や実務者へ継承する活動を継続しています。

・ UXデザイン連続セミナー

本セミナーは、2025年度で8年目を迎えました。これまでのインプットとアウトプットの両方を重視する形式を継承しつつ、「受講者同士が互いに学び合う」ことをさらに意識し、「スループロット」の実践に主眼を置いたカリキュラムを導入しています。単なる知識の伝達にとどまらず、受講者間の相互作用を促すことで、より深い理解と実践への接続を図りました。運営面では例年通り、過去に本セミナーを受講した教育事業部のメンバーを中心にチューターを配置しました。チューターにとっても、サポート活動を通じて自身の学習を実践的に振り返る貴重な機会となっています。

※詳細は、以下からご覧いただけます：
「2025年度UXデザイン連続セミナー」開催レポート
https://note.com/hcdnet_event/n/n5bc6015cb6df

● 学び合う

6月には、オンライン交流イベントを開催しました。テーマ別に設けたテーブルでは活発な対話が行われ、資格取得者や会員同士が立場を超えてフラットに知見を共有し合う有意義な時間となっています。事業部として、こうした開かれた交流の場づくりは常に大切にしているテーマの一つです。

※詳細は、以下からご覧いただけます：
「ワイワイしましょう！人間中心設計の専門家・スペシャリストや会員とのオンライン交流会～HCD-Net新歓イベント～」開催レポート
https://note.com/hcdnet_event/n/nb74e4e818728

● 学びをひろげる

昨年度に引き続き、HCDの対象領域をさらに広げるべく、新たな切り口のセミナーを積極的に企画・開催しました。

- ・「UX視点で学ぶ UIサウンドデザイン入門 ～ユーザー体験を向上させる報知音・音声の利用と設計～」(東京)
- ・「UX視点で学ぶ UIサウンドデザイン入門 ～ユーザー体験を向上させる報知音の設計～」(大阪)

教育事業部として初めて「音」や「聴覚」をデザインの対象に据えた意欲的な新企画です。当日は、参加者が持ち寄った事例に対して講師から丁寧なフィードバックがあり、活発な議論が交わされていました。大阪・東京の両会場ともに盛況を博し、五感を通じたUXデザインの重要性を発信する貴重な機会となりました。

※詳細は、以下からご覧いただけます：
「UX視点で学ぶ UIサウンドデザイン入門 ～ユーザー体験を向上させる報知音の設計～」開催レポート(大阪開催)
https://note.com/hcdnet_event/n/nbc6d588c700e
「UX視点で学ぶ UIサウンドデザイン入門 ～ユーザー体験を向上させる報知音・音声の利用と設計～」開催レポート(東京開催)
https://note.com/hcdnet_event/n/nadda1f44b311

・「90分で価値探索！生成AIを活用した高速KA法ワークショップ」

本講座は、回を追うごとに学習内容のブラッシュアップを重ねており、現在では定番の人気講座へと成長しました。生成AIという先端技術を効果的なツールとして取り入れながら、HCDの根幹である「顧客価値」の理解を深めるための、実践的な学びの場を提供しています。

● 2026年度に向けて:さらなる学修領域の拡大

2026年度は、対象とするHCD学修領域の範囲をさらに広げ、HCD-Net会員にとって「新たな学びの気づき」や「未知の学びとの出会い」の機会を一層増やすことにチャレンジしてまいります。



UX視点で学ぶ UIサウンドデザイン入門～ユーザー体験を向上させる報知音の設計～



HCD-Net新歓イベント(oVice会場)



UXデザイン連続セミナー

ビジネス支援事業部

ビジネス支援事業部はHCD専門家のスキルを発揮できる環境づくりおよび、HCD関連ツールの開発・提供を目的に以下の運営委員会と5つの専門委員会で活動しています。

2025年度の活動

●ビジネス支援事業部運営委員会(仮説検証ブートキャンプ実行PJ)

EdgeTech+2025併催の「仮説検証ブートキャンプ」を共催しました。本プログラムは(一社)組込みシステム技術協会(JASA)が主催する人材育成プロジェクトで、8月のオンライン学習による仮説検証の基礎習得から始まり、9～11月に3日間のフィールドワークとワークショップを実施。11月21日にパシフィコ横浜・EdgeTech+2025会場で、7チーム(36名)が企画プレゼンテーションを行いました。

1月22日と2月5日の2日間、HCDビジネスシンポジウム2026「人間中心デザインで描く宇宙生活体験～宇宙での快適な暮らしをデザインする～」を開催しました。講演+ワークショップの形式で、宇宙空間での生活体験をどのように設計できるかについて、多様なアイデア(4テーマ)を創出しました。

●HCDマインドセット醸成委員会

HCDを企業に浸透させるための戦略軸を整理し、企業成熟度に応じたハイ&ロー支援モデルの検討、今後の方向性(アナロジー思考・AI活用)などについての議論を進めました。

●HCD導入パターン委員会

HCD組織導入のノウハウをパターンランゲージ形式でまとめた資料「HCD導入パターン初版」の公開後、第2版の公開に向け、改善を進めています。

●自動運転社会におけるHAI(Human AI Interaction)検討委員会

「AIモデルを人間の能力軸で評価するためのデータ基盤づくりと評価手法の試行」を中心に、これまでの議論成果を活かしつつ、異分野との接点も広げ、自動運転AIの“人に寄り添う”方向性の具体化に向けた検討を行いました。

●「利用時品質」普及委員会

8月7日に「組織としてHCDに取り組む作法 — ISO 9241-220/221が示す実践と評価のかたち」を開催。その後10月～2月には、「HCD認証制度に関する勉強会」を4回にわたって開催しました。東海大学辛島研究室ゼミ(全12回)にて企業の採用サイトを題材に産業共通様式(CIF)に沿ったユーザビリティの評価と改善策の提案を行いました。

●HCSA(Human Centered System Architecture)委員会

10月27日には、大橋委員長がUWS2025に登壇し、「つながる世界の安全設計:人間中心で取り組むセキュリティ・プライバシーの実装戦略」をテーマにキーノートスピーチを行いました。11月26日に「利用時品質」普及委員会と連携し、標準ガイドライン(サービスデザイン)の勉強会を実施。1月28日には、Privacy by Design Conference 2026にて、多職種間対話支援ツール「Morris」検討ワークショップを実施しました。



「仮説検証ブートキャンプ」フィールドワーク・ワークショップ:NEC本社



「仮説検証ブートキャンプ」企画プレゼンテーション:パシフィコ横浜



「人間中心デザインで描く宇宙生活体験～宇宙での快適な暮らしをデザインする～」講演+ワークショップ:KDDI Digital Divergenceカンファレンスルーム



「Morris」検討ワークショップ



研究事業部

研究事業部のミッションは、人間中心設計に関する研究活動の活性化を図ることです。具体的には研究成果を発表する場として、研究発表会を年2回開催するとともに、機構誌を発行しています。また、機構誌に掲載する研究論文の査読プロセスを担う編集委員会を運営しています。さらに、研究活動の場としてSIGをサポートしています。

2025年度の活動

HCD-Netが日本学術会議の協力学術研究団体に指定されたことを受け、研究事業部は学会としての側面を強化していく考えです。今後は、研究事業部の活動を中心として「HCD学会」の呼称を広めていきます。

● HCD 研究発表会

春季研究発表会を5月31日に神戸親和大学で、冬季研究発表会をHCDフォーラムの一部として11月15日に武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパスで開催。いずれも、オンライン配信も行うハイブリッド形式で実施しました。冬季研究発表会から託児サービスの試みも始めました。十分な議論を実現するためにも、会場でのご参加をお勧めします。

※ 研究発表会は2026年度から「HCD学会研究発表会」と名称を変更する予定です。

【春季】

22件の口頭発表と15件のポスター発表がありました。

- ・ 優秀講演賞：「人間観によるサービスデザイン - オートポイエシスにもとづくナラティブ重視の介護サービス-」（井原雅行/理化学研究所、他10名）
- ・ 優秀ポスター賞：「UXデザインのコンセプトテストにおけるイメージ度と心像鮮明性」（森優介・安藤昌也/千葉工業大学）
- ・ 優秀ポスター賞：「マルチデバイス生体計測システム HuME の提案とパッケージ開封評価への適用」（村田耕一・北河茜・古田雅史・木村健士/株式会社島津製作所）

【冬季】

20件の口頭発表と18件のポスター発表がありました。

- ・ 優秀講演賞：「AIを活用した事業企画プロセスの効率化に向けた仕様駆動開発型プロトタイピング」（宮丸友輔/株式会社インテック）
- ・ 優秀ポスター賞：「食物アレルギーを持つ方の中・外食時の食選択を広げる原材料表示アプリ ~インタビューによるニーズの分析とUI設計~」（百崎玲唯名/同志社女子大学、高倉由圭/同志社女子大学大学院、和氣早苗/同志社女子大学）

● 機構誌の発行

通常の機構誌を2号（21巻1号、21巻2号）と、20周年記念特別号（21巻3号）を発行しました。21巻1号は3編（原著論文2編、短報2編、資料1編、資料（事例）3編）、2号は8編（原著論文1編、短報1編、資料（事例）1編）の査読付き論文を掲載しました。また、20周年記念特別号となる21巻3号には28編の記事を掲載しました。

※詳細は、以下からご覧いただけます：

J-STAGE 人間中心設計

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/hcd/-char/ja>

● 学術奨励賞

2024年度の機構誌に掲載された短報および資料論文の中から、人間中心設計の発展に貢献する優秀なものとして下記の論文を選考し、冬季研究発表会で表彰しました。

- ・ 学術奨励賞：「デザイナーによるファシリテーション：翻訳家・よそ者としてのデザイナー像」（杉浦彰彦/株式会社KDDI総合研究所、21巻1号掲載）

● SIG 活動

2024年度から活動を進めてきたダークパターン研究会 SIG (SIG-DP) がアンエシカルデザイン研究会 SIG に名称を変更しました。「非倫理的(アンエシカル)デザイン」についての探究をベースとしながら、その中に「ダークパターン(UI)」があると位置付けて研究を進めます。

この他に、論文執筆に慣れない皆さんを支援するメンター制度も用意しています。論文執筆や研究発表に不安がある方は、ぜひ、ご相談ください。



口頭発表



ポスター発表の会場



授賞式

関西支部

2013年の設立以来、関西を始めとする首都圏以外の地域において、HCDの実践を促進する目的でセミナーやワークショップを企画・主催しています。関西支部では、HCD-Netの年次活動である関西フォーラムをはじめ、他の事業部との共催による関西でのセミナーを実施しています。

2025年度の活動

● 関西支部の活動

関西フォーラムでは、「人間を理解する」という問い」と題して、文化人類学者の小川さやか氏、仕掛学の提唱者である松村真宏氏をお招きし、HCD-Net 井登理事長とともに、文化人類学・仕掛学・HCDという異なる学術的背景をもとに「人間理解」について探究し、川合俊輔氏によるインクルーシブデザインのワークショップも実施しました。

そのほか、子供向けワークショップや「様々な職業の方と語る会」、デザイナー同士の交流会などを継続して実施しています。2025年度は他の事業部と共催した関西でのセミナーも複数回行いました。また、2025年度春季 HCD 研究発表会を神戸親和大学にて実施しました。研究会の地域開催は、今後も定期的に行っていく方針です。

関西支部では、関西でのリアルイベントを通して、「体験したからこそわかる」機会と交流の場を提供していきたいと考えています。

● イベント

【関西支部主催】

- ・ 2025年4月、6月、9月 様々な職業の方と語る会
- ・ 2025年8月 HCD-Net 関西フォーラム「人間を理解する」という問い」
- ・ 2025年12月 子供向けワークショップ

【関西支部共催】

- ・ 2025年5月 2025年度春季HCD 研究発表会、神戸親和大学にて（主催：研究事業部）
- ・ 2025年7月 セミナー「UX視点で学ぶ UIサウンドデザイン入門」（主催：教育事業部）
- ・ 2025年11月 HCD-Net フォーラム関西サテライト（主催：HCD-Net フォーラム実行委員会）
- ・ 2026年3月 HCDと倫理を考える三重奏対話（主催：HCD 倫理規定検討WG）



HCD-Net 関西フォーラム2025



2025年度春季HCD 研究発表会、神戸親和大学にて



2025年度春季HCD 研究発表会、神戸親和大学にて

東海支部

東海支部は2020年に関西支部に続く2つ目の地方支部として設立しました。名古屋を中心とした東海地域における人間中心設計の理解促進とコミュニティの活性化を目的としてHCDの基礎的な知識や実践的な学びを提供するイベントを企画・主催しています。

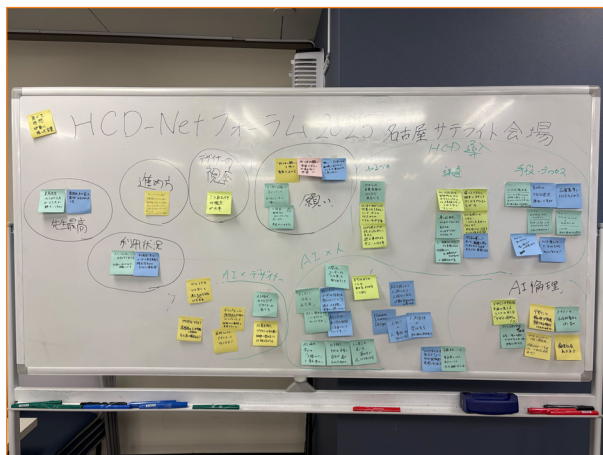
2025年度の活動

● イベント開催

HCD-Net 設立20周年記念大会「HCD-Net フォーラム2025」において、東海地域の皆様へ最新の知見や実践事例に触れる機会を提供するため、当支部は東京のメイン会場とオンライン接続したサテライト会場を名古屋に設置し、基調講演や各種セッションのリアルタイム配信を行いました。

閉会後には参加者同士が気づきや学びを共有する時間を設けた点も取り組みのひとつです。異なる専門領域や背景を持つ方々が意見交換を行うことで新たな発見や視点が生まれ、地域におけるHCD実践の深化とネットワーク形成に大きく寄与する場となりました。

今回の成果を踏まえ、HCD-Net 東海支部では今後も名古屋を中心にイベントを継続する方針です。学びと交流の場をいっそう充実させ、地域に根ざしたHCDコミュニティの発展と実務への応用を一層、推進します。



HCD-Net フォーラム2025名古屋サテライト会場の様子

特別プロジェクト

HCDの理念を地方や新分野へ広げることを目的に、事業部に属さない位置づけで設立されました。地方での支部設立準備や異分野交流「UXクロス」を推進しています。また、賛助会員向けサービスの高度化を図り、HCDの社会的基盤の強化を目指します。

2025年度の活動

●地方および他分野への普及拡大

2025年度は北海道や九州での支部設立を進めています。また多様な産業領域への浸透を図る「UXクロス」と名付けたイベントシリーズを立ち上げました。

1: 地方普及の取り組み

北海道支部および九州支部の設立に向けて、地域コミュニティの拡大を目的としたイベントを開催しました。

【北海道開催】

- ・ 2025年5月16日 人間中心設計・UXデザイン実践の基礎講座
- ・ 2025年8月7日 人間中心設計・UXデザイン実践の基礎講座
- ・ 2025年8月7日 HCD-Netナイト2025 @ 札幌
- ・ 2025年8月8日 「ヒューリスティック評価」入門ワークショップ
- ・ 2025年8月8日 「ペルソナ手法」入門ワークショップ

【九州開催】

- ・ 2025年6月6日 人間中心設計・UXデザイン実践の基礎講座
- ・ 2025年9月26日 HCD-Netナイト2025 @ 鹿児島
- ・ 2025年9月26日 「ペルソナ手法」入門ワークショップ
- ・ 2025年9月26日 人間中心設計・UXデザイン実践の基礎講座



北海道開催の様子

現在、東北地方および中国地方においても立ち上げの検討を開始しております。地域での活動にご協力いただける会員様がいらっしゃいましたら、ぜひお声がけください。皆様とともに地域コミュニティを育てていきたいと考えております。

2: 他分野への展開

他分野への普及に向けては、インクルーシブデザインネットワークとの共催イベントを継続するとともに、「UXクロス」と名付けたイベントシリーズを立ち上げました。さまざまな専門分野とHCDを掛け合わせることで、新しい視点や実践の可能性を探る取り組みです。異分野との交流を通じて、新しい気づきや実践へのヒントを得ていただける場となることを目指しています。

- ・ 2025年6月20日
ユニバーサルデザイン／インクルーシブデザイン講演会(2025 EAST)～「誰一人取り残さない」製品・サービス開発を目指して～
- ・ 2025年10月24日
ユニバーサルデザイン／インクルーシブデザイン講演会(2025 WEST)～「誰一人取り残さない」製品・サービス開発を目指して～
- ・ 2025年7月25日 「UXクロス」第1回テーマ:HCD × 教育学
- ・ 2025年8月28日 「UXクロス」第2回テーマ:HCD × 経営学



ユニバーサルデザイン／インクルーシブデザイン講演会でのワークショップの様子

●賛助会員向けサービスの向上

賛助会員の皆様は、本会の活動を支えてくださる重要なパートナーです。2024年に実施したヒアリング結果を踏まえ、会員ニーズに即したサービスの高度化を進めております。今後は、賛助会員向けイベントの開催頻度を高め、より実践的で交流の深まる機会を提供していきます。開催の際には、ぜひ積極的にご参加いただき、HCDの発展に向けた活発なディスカッションを行っていただければ幸いです。



「UXクロス」会場の様子

また、毎年ご好評をいただいております「合宿形式で学ぶ、写真KJ法ワークショップ」も継続して開催します。実践を通じて深く学べる機会となりますので、ご関心のある方はぜひご参加ください。

✓ HCD 専門資格認定センター

HCD 専門資格認定センターは「人間中心設計専門家」と「人間中心設計スペシャリスト」の資格制度を運営しています。資格制度が始まって17年を迎えました。認定者は合計で2,875名(2026年3月末)となります。

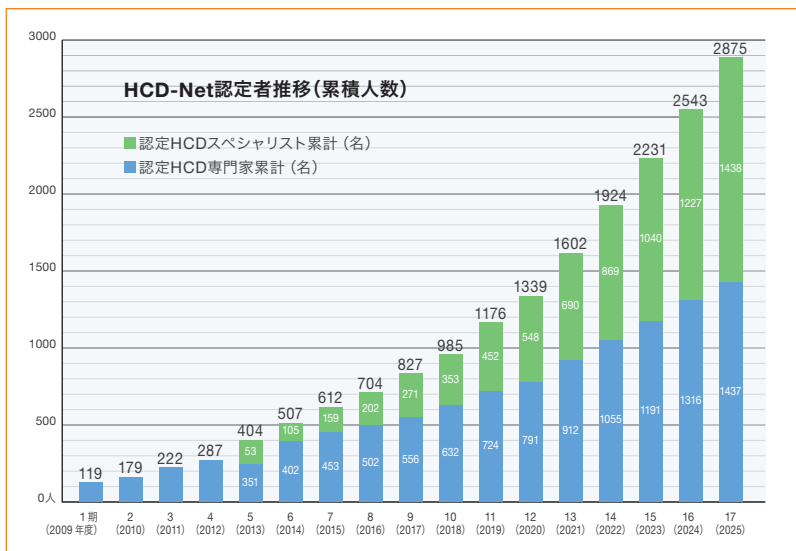
【専門資格 概要】

- ・実績にもとづく試験のため、スキルを客観的に証明できます。
- ・受験者にとっては、企業内で評価されやすい資格となります。
- ・企業にとっては、人材のスキルについて、第三者の客観的な保証を得ることができます。

2025年度の活動

「人間中心設計専門家」は第17期、「人間中心設計スペシャリスト」は第13期の認定試験を行いました。受験者数は年により若干の変動があるものの伸長を続けています。いまやUXデザインやHCD分野において、確かな有用性を持つ資格としての存在感を確立しました。とりわけ「人間中心設計スペシャリスト」の増加が顕著で、UXデザインやHCD分野のベテラン層のみならず、若手からも認知される資格へと成長しています。

当センターでは、受験の申請書類の改善、説明会資料の改訂、更新審査の運用改善、業務のシステム化といった施策を進めています。また、受験についてカジュアルに相談できるイベントを多く設けることで、応募者が増加傾向にあります。今年度は、より審査品質の標準化を進めるため、制度の採点基準を厳密化しました。



資格の認定者数の推移(累積) 2025年度まで集計

加えて当センターでは、未経験者や学生などより広い層の認定を目指した新制度を数年にわたり検討し、2022年度より「HCD基礎検定」を発足しました。「HCD基礎検定」は多数の受験者による大規模な運用が見込まれたため、既存のHCD-Netの体制だけでは受け止めきれないと判断し、連携団体として「一般社団法人 人間中心社会共創機構(略称 HCS共創機構)」を設立して運用に専念する体制としました。



資格の概観図



HCD 倫理規定検討ワーキンググループ

本ワーキンググループは、2020年に設置され、HCD-Netとして倫理問題にどのように向き合っていくかなどの議論を重ね、2022年4月1日に「Human Centered Design(HCD) 専門家 倫理規範第1版」を公開しました。その後はメディアや研究会等においてHCD関連の倫理に関する情報発信、研究発表、普及・啓蒙を推進しています。

2024年度のHCD-Netフォーラムでは、メインテーマを「デザインと倫理」として開催し、メイン企画、フォーラム企画、そして併催した研究発表会において、倫理に関する話題に注目したイベントとなりました。このイベント後にダークパターン研究会SIGが立ち上がり、現在はアンエシカル研究会SIGが活発に活動しています。本WGとして2025年度に下記2件のイベントを主催し、普及・啓蒙を推進しました。

2025年度の活動

●イベント開催1:講演会

講演タイトル:「ISO 25554:2024(高齢化社会—地域や企業等でウェルビーイングを推進するためのガイドライン)のご紹介と規格に込めた考え方」

講演者: 佐藤 洋(産業技術総合研究所 情報・人間工学領域 副領域長/日本人間工学会 ISO/TC159国内対策委員会委員長)

日時: 2025年11月11日(火) 17:30~19:00

方法: オンライン開催(zoom)

概要: ISO 25554:2024は、高齢化が進む社会で、地域や企業が人々の「しあわせ」や「生きがい」を大切にするための国際的なガイドラインです。それぞれの地域や組織が自分たちに合った方法でウェルビーイングを高めるための考え方や進め方を提示しています。講演会では、この規格の背景、基本の考え方、そしてその活用方法を紹介。参加者152名と盛況でした。

●イベント開催2:クロストークと参加型ディスカッション

タイトル:「HCDと倫理を考える三重奏対話」

日時: 2026年3月15日(日) 13:00~17:00

会場: 立命館大学 ROOT

登壇者:

井登友一(HCD-Net 理事長/立命館大学教授/インフォバーン取締役副社長)

谷口旭(パナソニック株式会社、くらしアプライアンス社マネージャー)

運行(京都大学経営管理大学院特定准教授/京都大学コミュニケーションデザインとDE&I コンソーシアム 共同代表/劇団衛星代表)

概要: ソナタ形式の話題提供、クロストーク、参加者ディスカッションの3部構成で実施。各テーブルに登壇者が加わる少人数ディスカッションが好評で、不親切理論、ルール化による思考停止の弊害、自律、必要条件と十分条件の違いなどが話題に上りました。

参加者は、HCD-Net 正会員、一般、学生が3分の1ずつ、世代・価値観・職業の異なる多様な顔ぶれでした。和やかな雰囲気の中で自由かつ深い対話が交わされる有意義な場となりました。

●アンエシカルデザイン研究会 SIG 活動

倫理規定検討WGのメンバーを中心として、2025年に発足しました。定期的なミーティングでの対話を活動の軸に据え、ダークパターンをはじめとするデザイン倫理についての議論を深めています。

HCD-Netフォーラム2025では、「アンエシカルデザインの枠組みの提案」を発表しました。ダークパターンを入り口としながら、それが生成される構造そのものに焦点を当てた内容です。今後も、UI上のダークパターンという個別の問題にとどまらず、アンエシカル(非倫理的)なデザインを生み出す組織構造、ひいては社会構造にも着目し、研究を継続していきます。

ウェブワーキンググループ

ウェブワーキンググループは、事務局と密に連携し、HCD-Netのウェブサイトおよびソーシャルメディアの運用を統括しています。ITやウェブサイト制作に豊かな知見を持つメンバーが参加し、ウェブサイトやソーシャルメディアの全体最適化を進めています。ウェブサイトのスマートフォン対応、レガシー化したインフラのモダン環境への移行、Slack導入などをこれまでの数年間で進めてきました。

ウェブワーキンググループはこれまで運用の都合で独立組織となっておりますが、さらなる発信力の強化と全体最適を目指し、広報社会化事業部へ統合する予定です。

2025年度の活動

HCD-Net公式ウェブサイトは、前回のリニューアルから5年以上が経過しており、サイト構造が現在のHCD-Netの運用に合わなくなってきていることや、CMS(コンテンツ管理システム)の老朽化、技術者人材の安定確保が難しく運用がしづらいたことが課題になっていました。将来の情報発信の中核を担うべく、HCD-Netウェブサイトを事務局のみで運用できる基盤システムへ移行、サイト構造の刷新を進めました。



HCD-Net公式ウェブサイト(2026年4月時点)

リニューアル公開した新しいウェブサイトでは、以下の方針でプロジェクトを進めました。

1. これまでのCMSおよびインフラ環境は、運用に求められるIT知識が高度で、事務局およびウェブワーキンググループの人員体制では対応しきれないことがありました。新しいCMSではクラウドサービスへ完全移行し、インフラ環境の自営をなくしました。
2. これまでのCMSは、機能を理解していないとウェブサイトの更新作業ができないことがありました。今後は、より操作の簡易なクラウドサービスへ移行し、専門知識がなくとも、誰でもウェブサイトを更新できるようにしました。
3. HCD-Netのウェブサイトには、HCDの資料として価値の高いコラムが多く蓄積されています。こうした貴重なナレッジをより多くの方々に活用いただくため、情報の届け方を最適化しました。コラムをはじめとした読み物コンテンツは、デザインコミュニティがすでに存在する外部サービスに掲載場所を設け、多くの方の目に留まる仕組みづくりに取り組んでいます。

ピックアップイベント

社会的に生成AIへの関心が高まる中、HCD-Netの活動においても関連テーマの開催が目立ち始めています。ここでは3つの関連イベントをピックアップしてご紹介します。

● 90分で価値探索！生成AIを活用した高速KA法ワークショップ

2025年6月26日(水)

主催：人間中心設計推進機構 教育事業部

生成AIの進化により、インタビューや会話ログなどの定性情報分析は大きく変わり始めています。一方で、人間中心設計において重要なのは、単なる発言の要約や分類ではなく、利用者自身も言語化できていない潜在ニーズや価値の発見です。本ワークショップでは、質的データ分析手法であるKA法と生成AIを組み合わせ、従来は経験や熟練を要した切片抽出・コーディング作業を効率化し、価値探索を高速化する実践方法を体験いただきました。さらに、株式会社はてなが手がけるAIツール「toitta」を活用し、AIによる定性分析を実際に試用することで、“AIが分析を支援し、人が価値を見出す”新しいHCD実践プロセスを学ぶ機会を提供しました。

※ イベント内容は以下からご覧いただけます
https://note.com/hcdnet_event/n/n90208da8b998

● EdgeTech+ 2025 AI活用時代のデジタルスキルと人材育成

2025年11月19日(水)～21日(金)

主催：般社団法人 組込みシステム技術協会<JASA> (特別協力:HCD-Net ビジネス支援事業部)

本イベントでは、生成AIの急速な進展により大きく変化するものづくり・組込み開発の現場に対し、人間中心設計の重要性を改めて問い直しました。パネルディスカッション「AI活用時代のデジタルスキルと人材育成」では、生成AIを単なる効率化ツールとして捉えるのではなく、人とAIが協調する社会において必要となるデザインマネジメント、人間理解、仮説検証力、価値創出力について議論を展開。また、「デジタル共生社会で活躍できる人材像」をテーマに、AIの能力を最大限引き出しながらも、人間中心で意思決定・体験設計を行う次世代人材の育成や組織実装のあり方について、多角的な視点から展望する機会を提供しました。

※ イベント内容は以下からご覧いただけます
https://note.com/hcdnet_event/n/n2df1062a60ed

● ～実践が社会をつくる～ HCD事例発表会 + 人間工学会アーゴデザイン部会 Future Experience(FX)フォーラム

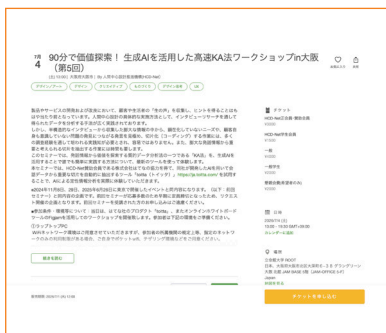
2026年1月30日(金)

主催：人間中心設計推進機構 特別プロジェクト

共催：日本人間工学会アーゴデザイン部会

「第二部: Future Experience(FX)フォーラム ― ビジョンを社会に実装するために」では、生成AI時代における人間中心設計の役割を、未来構想から社会実装へつなぐ実践知として捉え直しました。「ビジョンから社会実装へ - デザインプロセスにおける生成AIの活用」では、生成AIによってデザインプロセスの負荷を軽減し、仮説検証や評価を加速する可能性を提示しています。また、教育・研究、ライフプロジェクト、地域活動など多様な実践を通じて、企業・組織・個人が未来の体験をどのように描き、現実社会の変化へ結びつけるかを議論。HCDを、単なるユーザー理解の手法にとどめず、生成AIと共に未来を実装するための基盤として考えるセッションとなりました。

※ イベント内容は以下からご覧いただけます
https://note.com/hcdnet_event/n/n78c90dd1b8f



90分で価値探索！生成AIを活用した高速KA法ワークショップ



～実践が社会をつくる～ HCD事例発表会 + 人間工学会アーゴデザイン部会 Future Experience(FX)フォーラム

イベント一覧 1/2

2024年 5月

人間中心設計・UXデザイン実践の基礎講座

5月16日(金)
水本徹(HCD-Net)
主催:特別プロジェクト

2025年度春季HCD研究発表会

5月31日(金)
河野泰広(東京情報大学)
後藤由翔(千葉県立船橋豊郷高校)
原田恵理子(東京情報大学)
村田和也(鹿児島女子短期大学)
根本大志(鹿児島立大学)
梅澤幸太郎(芝浦工業大学)
川島瑞貴(芝浦工業大学)
山本将也(筑波大学大学院)
吉武良治(芝浦工業大学)
近藤朗(鹿児島女子短期大学)
森山明宏(HCD-Net理事/ユリカ株式会社)
有井誠(日本アイ・ピー・エム株式会社)
小野寺志帆(日本アイ・ピー・エム株式会社)
金山浩(株式会社メンバーズ ポップインサイトカンパニー)
小原佳(株式会社たきこーポレーション IDEAL)
小林敦平(株式会社グレスコ)
近藤恭代(LINEヤフー株式会社)
酒田直毅(富士通株式会社)
酒井美彩都(TDCソフト株式会社)
末藤和佳子(株式会社デジオン)
竹林淳(GSCS株式会社)
土田哲平(楽天グループ株式会社)
寺村信介(ソニー株式会社)
林哲也(ソニー株式会社)
福山朋子(株式会社インテック)
和田田理科(株式会社JVCケンウッド・デザイン)
石川まるみ(福岡大学商学部シテンスサイエンス研究センター)
澄本慎平(福岡大学商学部シテンスサイエンス研究センター)
森田泰輔(福岡大学商学部/福岡大学商学部シテンスサイエンス研究センター)
井原雅行(理化学研究所)
徳永弘子(理化学研究所)
中島知巳(理化学研究所/やまなみ介護生活)
後藤裕基(理化学研究所/明輝会)
梅崎優貴(理化学研究所/総仁会)
江川陽子(理化学研究所/大牟田市立病院)
久野真矢(理化学研究所/鹿児島立大学)
猿渡進平(理化学研究所/静岡国白川病院)
滝隆史(理化学研究所)
中村泰(理化学研究所)
本江正茂(理化学研究所/東北大学)
長谷川敦士(株式会社コンソート/武蔵野美術大学)
辛島光彦(東海大学)
和田田理科(株式会社JVCケンウッド・デザイン)
江尻綾美(福島大学)
辻岡啓司(京都大学)
F.シヤパン(京都大学)
御門文(京都大学)
谷井由実子(京都大学)
山崎美里(京都大学)
末長英里子(京都大学大学院)
蓮行(京都大学大学院)
山本信幸(シナジーマーケティング株式会社)
指澤竜也(TOPPANエッジ株式会社)
須藤美帆(株式会社JVCケンウッド・デザイン)
森涼華(株式会社JVCケンウッド・デザイン)
鈴木彩音(株式会社JVCケンウッド・デザイン)
赤池龍成(株式会社JVCケンウッド・デザイン)
張天池(株式会社JVCケンウッド・デザイン)
本間理子(中央大学)
張嘉妮(中央大学)
佐藤美優(中央大学)
飯尾淳(中央大学)
清岡成望(中央大学)
茂木英琉(中央大学)
辰野美澄(中央大学)
真方稔梨(中央大学)
松延拓生(和歌山大学システム工学部)
飯村祐月(和歌山大学システム工学部)
北村周仁(和歌山大学システム工学部)
大垣瑞奏(KDDI株式会社)
瀧山敦子(株式会社JVCケンウッド・デザイン)
本村章(株式会社ゆめみ)
上林昭(リソソ/産業技術大学院大学)
高橋英里(日本電気株式会社)
山田正洋(株式会社brushup)
主催:研究事業部

6月

人間中心設計・UXデザイン実践の基礎講座

6月6日(金)
水本徹(HCD-Net)
主催:特別プロジェクト

ユニバーサルデザイン/インクルーシブデザイン講演会(2025 EAST)~「誰一人取り残さない」製品・サービス開発を目指して~

6月14日(土)
井出健太郎(UXPRESS)
境薫(富士通株式会社)
岩田佳子(株式会社リコー)
川田夏希(ピクシーダストテクノロジーズ株式会社)
原利明(鹿島建設株式会社)
主催:特別プロジェクト

ワイワイしましょ!人間中心設計の専門家・スペシャリストや会員とのオンライン交流会~HCD-Net新歓イベント~

6月20日(金)
主催:教育事業部

「90分で価値探索!生成AIを活用した高速KA法ワークショップ」

6月26日(木)
米山弘義(株式会社ほてな)
主催:教育事業部

7月

UX視点で学ぶ UIサウンドデザイン入門~ユーザー体験を向上させる報知音の設計~

7月5日(土)
和氣早苗(同志社女子大学)
主催:教育事業部

HCD-Net AWARD受賞者登壇&新HCD-Net AWARD 2025説明会

7月8日(火)
占部舞(NTTテクノクロス株式会社)
大野健彦(NTTテクノクロス株式会社)
主催:広報社会化事業部

「UXクロス」第1回テーマ:HCD x 教育学

7月25日(金)
辻正太(FC今治高校理山校)
日野隆史(LINEヤフー株式会社)
木内孝昌(LINEヤフー株式会社)
水本徹(HCD-Net)
主催:特別プロジェクト

8月

出版記念講演:『モードレスデザイン』へのいざない

8月4日(月)
上野学(ソシオメディア株式会社)
水本徹(HCD-Net)
主催:特別プロジェクト

HCD-Net AWARD 2025 審査員 募集&説明会

8月5日(火)
主催:広報社会化事業部

人間中心設計・UXデザイン実践の基礎講座

8月7日(木)
水本徹(HCD-Net)
主催:特別プロジェクト

HCD-Netナイト2025 @札幌

8月7日(木)
水本徹(HCD-Net)
佐々木誠司(株式会社フレシセル)
相沢直人(ユーズム株式会社)
主催:特別プロジェクト

組織としてHCDに取り組む作法 - ISO 9241-220/221が示す実践と評価のかたち

8月7日(木)
平沢尚毅(小樽商科大学)
福住伸一(理化学研究所)
山本雅康(ふしみや)
主催:ビジネス支援事業部

「ヒューリスティック評価」入門ワークショップ

8月8日(金)
佐々木誠司(株式会社フレシセル/さっぽろインノベーションラボ)
相沢直人(ユーズム株式会社)
水本徹(HCD-Net)
主催:特別プロジェクト

「ベルソナ手法」入門ワークショップ

8月8日(金)
水本徹(HCD-Net)
佐々木誠司(株式会社フレシセル)
相沢直人(ユーズム株式会社)
主催:特別プロジェクト

2025年度UXD連続セミナー

2025年8月23日(土)、8月30日(土)、9月15日(月)、9月28日(日)、10月12日(日)、10月26日(日)
井登友一(株式会社インフォバー/立命館大学/HCD-Net)
主催:教育事業部

「UXクロス」第2回テーマ:HCD x 経営学

8月28日(木)
山縣正幸(近畿大学)
村上洋希(アクセンチュア ソング)
川島里沙(アクセンチュア ソング)
水本徹(HCD-Net)
主催:特別プロジェクト

HCD-Net関西フォーラム2025 “人間を理解する”という問い-文化人類学・仕掛学・HCDの対話

8月31日(日)
川合俊輔(CULUMU)
小川さやか(立命館大学)
松村真宏(大阪大学)
井登友一(HCD-Net/立命館大学/株式会社インフォバー)
主催:広報社会化事業部

9月

ユーザーの「心の声」を聴く技術~インタビュ調査の実践的アプローチ~

9月18日(木)
奥泉直子
水本徹(HCD-Net)
主催:東海支部

人間中心設計・UXデザイン実践の基礎講座

9月26日(金)
水本徹(HCD-Net)
今門克行(株式会社シナプス)
主催:特別プロジェクト

「ベルソナ手法」入門ワークショップ

9月26日(金)
水本徹(HCD-Net)
今門克行(株式会社シナプス)
主催:特別プロジェクト

HCD-Netナイト2025 @鹿児島

9月26日(金)
水本徹(HCD-Net)
今門克行(株式会社シナプス)
主催:特別プロジェクト

10月

「ユニバーサルデザイン/インクルーシブデザイン講演会(2025 WEST)~「誰一人取り残さない」製品・サービス開発を目指して~

10月24日(金)
タキザワケイタ(PLAYWORKS株式会社)
常岡天祐(合同会社Ledesome)
板垣宏明(NPO法人アイ・コロポレーション神戸)
寛麻子(株式会社フェリシモ)
中尾洋子(パナソニック株式会社)
主催:特別プロジェクト

「HCD認証制度に関する勉強会(全4回)」

2025年10月31日(金)、12月17日(水)、2026年1月15日(木)、2月25日(木)
中川梓(一般財団法人日本規格協会)
河野文昭(一般社団法人日本SPICEネットワーク)
込山俊博(日本電気株式会社)
倉部勇一(東京女子医科大学・早稲田大学 共同大学院/日本電気工業株式会社)
小倉博行(日本大学)
主催:ビジネス支援事業部

11月

「UX視点で学ぶ UIサウンドデザイン入門~ユーザー体験を向上させる報知音・音声の利用と設計~

11月1日(土)
和氣早苗(同志社女子大学)
主催:教育事業部

HCD倫理規定検討WG主催講演会「ISO 25554:2024(高齢化社会~地域や企業等でウェルビーイングを推進するためのガイドライン)のご紹介と規格に込めた考え方」

11月1日(土)
佐藤洋(国立研究開発法人産業技術総合研究所)
主催:HCD倫理規定検討WG

HCD-Netフォーラム2025

11月14日(金)
水本徹(HCD-Net)
水野愛弓(日本事務機器株式会社)
水出悠斗(インキュデータ株式会社)
黒須正明(放送大学)
安藤昌也(千葉工業大学)
杉村郁雄(プロセクリエイト)
川崎文子(BIPROGY株式会社)
岡本里美(伊藤忠テクノソリューションズ株式会社)
熊田可那子(アウルズビジネスパートナーズ株式会社)
長谷川敦士(株式会社コンソート)
藤木武史(クロコ株式会社)
早乙女真由美(ユニグループ株式会社)
米本明弘(株式会社mct)
増田伸生(株式会社mct)
牛嶋洋平(株式会社mct)
荒井健吾(株式会社mct)
美馬のゆり(公立ほこたえ未来大学)
大岸範史(ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社)
濱口貴広(オムロンヘルスケア株式会社)
内田さやか(BIPROGY株式会社)
主催:HCD-Net



イベント一覧 2/2

2025年度冬季HCD研究発表会

11月15日(土)

近藤朝 (鹿児島女子短期大学)
 國上真章 (東京科学大学、千葉商科大学)
 菊地剛正 (関東学院大学、千葉商科大学)
 寺野隆雄 (千葉商科大学)
 山本都也 (株式会社インクワイア)
 長谷川敦士 (株式会社コンセプト)
 川崎美紀 (株式会社コンセプト)
 岩瀬ユカ (株式会社コンセプト)
 森田雄 (株式会社ツルカメ)
 伊原力也 (起業企画合同会社)
 細見知礼 (高知県立大学)
 根本大志 (高知県立大学)
 大崎理乃 (鳥根大学)
 岩崎綾乃 (Parsons School of Design, The New School)
 相田航平 (東京都立産業技術大学院大学)
 飯塚幸雄
 赤羽太郎 (株式会社コンセプト)
 辛島光彦 (東海大学)
 大崎理乃 (鳥根大学)
 新井恒陽 (武蔵野美術大学大学院)
 長谷川敦士 (武蔵野美術大学)
 高倉由圭 (同志社女子大学大学院)
 和氣早苗 (同志社女子大学)
 尾形慎哉 (株式会社グラグリップ)
 森本高志 (パナソニック ホールディングス株式会社)
 宮下航 (パナソニック ホールディングス株式会社)
 小西美穂 (組化成株式会社)
 丸岡豊 (組化成株式会社)
 森下早紀 (組化成アミダス株式会社)
 岡本里美 (伊藤忠テクノソリューションズ株式会社)
 柳内和美 (伊藤忠テクノソリューションズ株式会社)
 長岡仰太郎 (龍華学園中学校高等学校教員) および生徒のみなさん
 由井真波 (長野県立大学/リンク・コミュニケーション研究所/成安造形大学)
 吉松美香 (鹿児島女子短期大学)
 三木陽介 (株式会社TKC)
 桂木紫帆 (株式会社リコー)
 濱口洋輔 (株式会社FLOTTO)
 阿久津詠美 (奈良女子大学)
 篠澤和恵 (奈良女子大学)
 須藤克仁 (奈良女子大学)
 山田菊子 (株式会社ソーシャル・デザイナーズ・ベース)
 和井田理科 (株式会社JVCケンウッド・デザイン)
 藤崎聡 (日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社)
 宮丸友輔 (株式会社インテック)
 五十嵐雄 (株式会社はてな)
 米山弘恭 (株式会社はてな)
 山本信幸 (シナジーマーケティング株式会社)
 谷口旭 (パナソニック株式会社)
 主催: 研究事業部

EdgeTech+ 2025

【パネルディスカッション】AI活用時代のデジタルスキルと人材育成
 【企画プレゼンテーション】仮説検証ブートキャンプ

11月21日(金)

主催: 一般社団法人 組込みシステム技術協会
 共催: HCD-Net

合宿形式で学ぶ、写真KJ法ワークショップ

11月26日(水)・28日(金)

中川梓 (一般財団法人日本規格協会)
 河野文昭 (一般社団法人日本SPICEネットワーク)
 込山俊博 (日本電気株式会社)
 倉部勇一 (東京女子医科大学・早稲田大学・共同大学院/日本光電工業株式会社)
 小倉博行 (日本大学)
 主催: 特別プロジェクト

2026年 1月

HCDビジネスシンポジウム2026「人間中心デザインで描く宇宙生活体験 ～宇宙での快適な暮らしをデザインする～」

1月22日(木)、2月5日(木)

白坂成功 (慶應義塾大学大学院)
 野中朋美 (早稲田大学)
 主催: ビジネス支援事業部

HCD-Net AWARD Special Session「動機のデザイン」in 大阪

1月24日(土)

井登友一 (HCD-Net)
 由井真波 (信越化学工業株式会社/東京大学/京都大学/早稲田大学/慶応義塾大学)
 谷口旭 (パナソニック株式会社)
 尾崎真紀子 (株式会社フランチ)
 脇阪善則 (HCD-Net)
 主催: 広報社会化学事業部

「～実践が社会をつくる～ HCD事例発表会 + 人間工学会アーゴデザイン部会 Future Experience(FX)フォーラム」

1月30日(金)

渡辺洋人 (ソニーグループ株式会社)
 小林広樹 (パナソニック オートモーティブシステムズ株式会社)
 中川浩伸 (株式会社島津製作所)
 林昌俊 (キヤノン株式会社)
 郷健太郎 (山梨大学)
 西内信之 (東京都立大学システムデザイン学部情報科学科)
 山崎和彦 (デザイン研究所/武蔵野美術大学ソーシャルクリエイティブ研究所)
 佐藤公一
 主催: 特別プロジェクト

2月

【賛助会員限定】HCD-Netサロン

2月27日(金)

水本徹 (HCD-Net)
 主催: 特別プロジェクト

【人間中心設計推進専門家/スペシャリスト限定】交流会

2月27日(金)

谷口旭 (パナソニック株式会社)
 笹島邦 (株式会社島津製作所)
 平野智久 (株式会社NTTデータ)
 山田緑 (株式会社トラストバンク)
 佐藤史 (株式会社コンセプト)
 主催: 特別プロジェクト

3月

「ユーザーリサーチ」入門ワークショップ + 人間中心設計専門家/スペシャリスト試験の振り返り会

3月6日(金)

水本徹 (HCD-Net)
 山崎智之 (カラビナテクノロジー株式会社)
 主催: 特別プロジェクト

「UXクロス」第3回テーマ:HCD x 文化人類学

3月12日(木)

伊藤泰信 (北陸先端科学技術大学院大学)
 水本徹 (HCD-Net)
 主催: 特別プロジェクト

「HCDと倫理を考える三重奏対話」

3月15日(日)

井登友一 (HCD-Net/立命館大学経営学部/株式会社インフォバーン)
 谷口旭 (パナソニック株式会社)
 蓮行 (京都大学経営管理大学院)
 主催: HCD倫理規定検討WG、関西支部

決算報告

2025年度 活動計算書（その他事業がない場合）

科 目	金 額 (円)	小 計・合 計 (円)
【A】 経 常 収 益		
1 受取会費		
正会員受取会費	16,958,000	
学生会員受取会費	56,000	
賛助会員受取会費	4,520,000	21,534,000
2 受取寄附金	0	0
3 受取助成金等	0	0
4 事業収益		
調査・研究事業収益	1,905,250	
人材育成事業収益	2,971,720	
普及・啓発事業収益	4,469,350	
開発事業収益	1,498,000	
規格化・認証事業収益	16,956,797	
国際事業収益	0	27,801,117
5 その他の収益		
受取利息	135,326	
雑収入	41,734	177,060
経 常 収 益 計		49,512,177
【B】 経 常 費 用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	4,955,552	
法定福利費	0	
福利厚生費	0	4,955,552
(2) その他経費		
外注費	1,456,610	
運営費	2,210,704	
支払手数料	574,987	
広報費	202,900	
旅費交通費	2,551,273	
通信運搬費	279,422	
消耗品費	108,743	
印刷製本費	265,237	
会議費	15,655	
諸謝金	8,739,736	
租税公課	1,265,966	
委託費	139,170	
雑費	792,000	18,602,403
事業費計		23,557,955
2 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	10,323,946	
法定福利費	1,493,676	
福利厚生費	23,790	11,841,412
(2) その他経費		
支払手数料	2,082,433	
会議費	150,740	
旅費交通費	499,047	
通信運搬費	1,017,263	
消耗品費	203,050	
印刷製本費	5,378	
運営費	8,014	
賃借料	10,560	
租税公課	4,664	
委託費	1,622,433	
雑費	942,600	6,546,182
管理費計		18,387,594
経 常 費 用 計		41,945,549
当 期 経 常 増 減 額 【A】-【B】・・・①		7,566,628
【C】 経 常 外 収 益	0	
経 常 外 収 益 計		0
【D】 経 常 外 費 用	0	
経 常 外 費 用 計		0
当 期 経 常 外 増 減 額 【C】-【D】・・・②		0
税 引 前 当 期 正 味 財 産 増 減 額 ①+②・・・③		7,566,628
法人税、住民税及び事業税・・・④		1,708,700
前期繰越正味財産額・・・⑤		64,845,053
次 期 繰 越 正 味 財 産 額 ③-④+⑤		70,702,981

2025年度 計算書類の注記

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準 によっています。

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
棚卸資産は個別法によって評価しています。
- (2) 消費税等の会計処理
税込処理を行なっています。

2. 事業別損益の状況

(単位：円)

科 目	調査・研究 事業	人材育成 事業	普及・啓発 事業	開発事業	規格化・認証 事業	国際事業	事業部門計	管理部門	合 計
I 経常収益									
1. 受取会費	0	0	0	0	0	0	0	21,534,000	21,534,000
2. 受取寄附金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3. 受取助成金等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4. 事業収益	1,905,250	2,971,720	4,469,350	1,498,000	16,956,797	0	27,801,117	0	27,801,117
5. その他収益	30,000	0	0	0	0	0	30,000	147,060	177,060
経常収益計	1,935,250	2,971,720	4,469,350	1,498,000	16,956,797	0	27,831,117	21,681,060	49,512,177
II 経常費用									
(1) 人件費									
給料手当	60,495	0	96,792	0	4,798,265	0	4,955,552	10,323,946	15,279,498
法定福利費	0	0	0	0	0	0	0	1,493,676	1,493,676
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	23,790	23,790
人件費計	60,495	0	96,792	0	4,798,265	0	4,955,552	11,841,412	16,796,964
(2) その他経費									
外注費	0	209,000	937,200	0	310,410	0	1,456,610	0	1,456,610
運営費	456,310	118,513	1,395,225	240,656	0	0	2,210,704	8,014	2,218,718
支払手数料	139,509	36,214	309,336	89,928	0	0	574,987	2,082,433	2,657,420
広報費	2,450	0	2,450	198,000	0	0	202,900	0	202,900
旅費交通費	177,518	378,439	1,979,806	15,510	0	0	2,551,273	499,047	3,050,320
通信運搬費	40,734	24,215	115,754	0	98,719	0	279,422	1,017,263	1,296,685
消耗品費	1,422	0	64,117	4,811	38,393	0	108,743	203,050	311,793
印刷製本費	31,097	0	6,973	0	227,167	0	265,237	5,378	270,615
会議費	0	0	15,655	0	0	0	15,655	150,740	166,395
賃借料	0	0	0	0	0	0	0	10,560	10,560
諸謝金	25,000	2,127,179	2,482,886	721,399	3,383,272	0	8,739,736	0	8,739,736
租税公課	87,960	135,069	203,139	68,086	2,480,412	0	2,974,666	4,664	2,979,330
図書費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
委託費	36,585	0	36,585	0	66,000	0	139,170	1,622,433	1,761,603
雑費	660,000	0	132,000	0	0	0	792,000	942,600	1,734,600
その他経費計	1,658,585	3,028,629	7,681,126	1,338,390	6,604,373	0	20,311,103	6,546,182	26,857,285
経常費用計	1,719,080	3,028,629	7,777,918	1,338,390	11,402,638	0	25,266,655	18,387,594	43,654,249
当期経常増減額	216,170	△ 56,909	△ 3,308,568	159,610	5,554,159	0	2,564,462	3,293,466	5,857,928

3. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

・事業費と管理費の按分方法

各事業の経費及び事業費と管理費に共通する経費のうち、事務局員の給料手当、交通費については従事割合に基づき按分しています。

2025年度 貸借対照表

(単位：円)

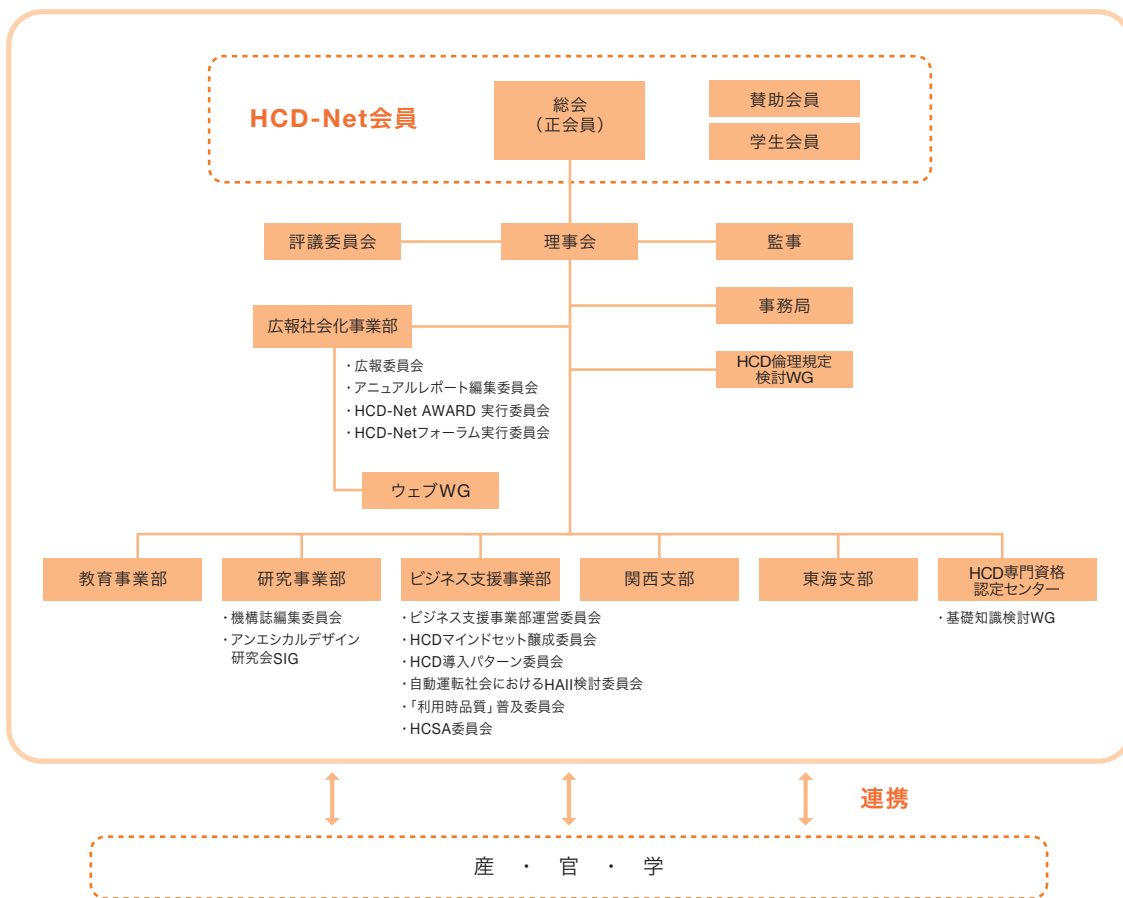
科 目	金 額	小 計・合 計
【A】 資 産 の 部		
1 流動資産		
現金預金	70,485,938	
前払金	10,756	
未収金	4,342,000	
貯蔵品	26,794	
流動資産合計・・・①		74,865,488
2 固定資産		
(1) 有形固定資産		
	0	
(2) 無形固定資産		
ソフトウェア	2,794,000	
(3) 投資その他の資産		
	0	
固定資産合計・・・②		2,794,000
【A】 資 産 合 計 ①+②		77,659,488
【B-1】 負 債 の 部		
1 流動負債		
未払金	6,314,817	
前受金	360,000	
預り金	281,690	
流動負債合計・・・③		6,956,507
2 固定負債		
	0	
固定負債合計・・・④		0
負 債 合 計 ③+④		6,956,507
【B-2】 正 味 財 産 の 部		
前期繰越正味財産額	64,845,053	
当期正味財産増減額	5,857,928	
正 味 財 産 合 計		70,702,981
【B】 負 債 及 び 正 味 財 産 合 計 【B-1】+【B-2】		77,659,488

2025年度 財産目録

(単位：円)

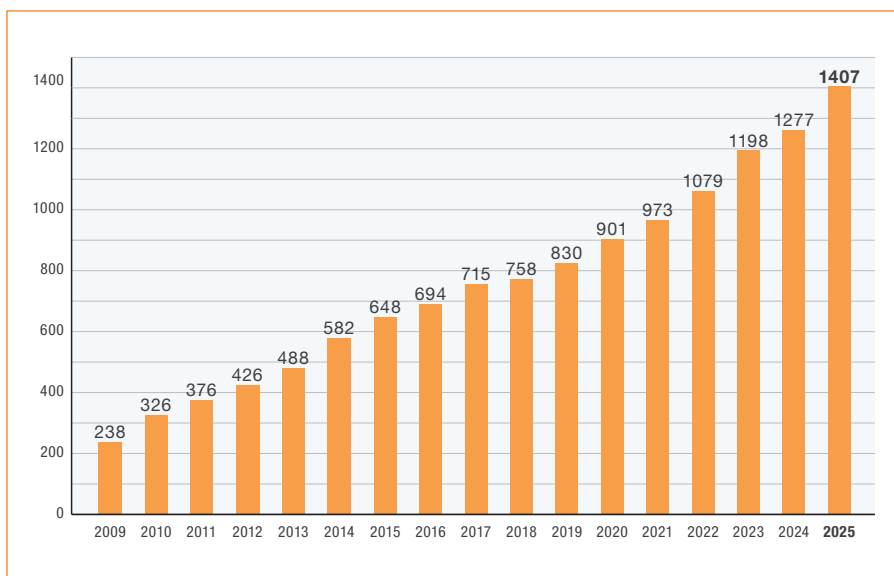
科 目	金 額	小 計	合 計
【A】 資 産 の 部			
1 流動資産			
現金預金			
普通預金 三菱東京 UFJ 銀行渋谷支店	70,302,080		
普通預金 三井住友銀行神田支店	183,858	70,485,938	
未収金			
規格化・認証事業未収金	4,342,000	4,342,000	
前払金			
GMO サーバーレンタル料 2026 年 4 月利用分	2,081		
GMO MICROSOFT365 2026 年 4 月利用分	8,675	10,756	
貯蔵品			
総合パンフレット	13,352		
機構誌	13,442	26,794	
流動資産合計・・・①			74,865,488
2 固定資産			
(1) 有形固定資産			
		0	
(2) 無形固定資産			
ソフトウェア	2,794,000	2,794,000	
(3) 投資その他の資産			
		0	
固定資産合計・・・②			2,794,000
【A】 資 産 合 計 ①+②			77,659,488
【B-1】 負 債 の 部			
1 流動負債			
未払金			
3 月分事務局給与	1,209,717		
活動謝金	657,053		
認定証作成・発送費	323,807		
業務委託費	1,097,800		
未払消費税等	683,200		
未払法人税等	1,708,700		
諸口	634,540	6,314,817	
前受金			
2026 年正会員費	36,000		
2026 年賛助会員費	30,000		
2026 年資格維持費	294,000	360,000	
預り金			
源泉所得税	281,690		
住民税	0	281,690	
流動負債合計・・・③			6,956,507
2 固定負債			
	0	0	
固定負債合計・・・④			0
【B-1】 負 債 合 計 ③+④			6,956,507
【B-2】 正 味 財 産 合 計 【A】-【B-1】			70,702,981

組織図



各事業部・センター・支部の委員一覧はこちら <https://www.hcdnet.org/organization/organization/hcd-975.html>

正会員数推移



役員一覧

理事長： 井登 友一（株式会社インフォバーン）

副理事長： 長谷川 敦士（株式会社コンセント）
水本 徹（株式会社島津製作所）
吉武 良治（芝浦工業大学）

理事： 飯尾 淳（中央大学）
岡本 鉄兵（流通経済大学）
尾崎 真紀子（株式会社フランジ）
加藤 公一（ブラザー工業株式会社）
河野 泉（神戸親和大学）
皿谷 知之（株式会社ぶらすU）
花田 直人（KDDI株式会社）
羽山 祥樹（日本ウェブデザイン株式会社）
森山 明宏（ユーリカ株式会社）
山口 恒久（株式会社明電舎）
山田 菊子（株式会社ソーシャル・デザイナーズ・ベース）
脇阪 善則

監事： 早川 誠二（HCD YOROZU Consulting）
山岡 俊樹（和歌山大学）

【事務局】

事務局長： 和井田 理科
事務長： 中村 めぐみ
ウェブサイト担当： 羽山 祥樹

賛助会員一覧

五十音順（2026年3月31日現在）

アシアル株式会社
アビームコンサルティング株式会社
株式会社アルカディット
株式会社イセト
市光工業株式会社
株式会社イード
株式会社インクワイア
インフォコム株式会社
株式会社インフォバーン
SCSK株式会社
エスディーテック株式会社
NECソリューションイノベータ株式会社
株式会社NTTアド
株式会社NTTデータ
株式会社NTTデータMSE
沖コンサルティングソリューションズ株式会社
オムロンヘルスケア株式会社
KDDIアジャイル開発センター株式会社
コニカミノルタ株式会社
株式会社コンセント
サイフォン合同会社
サンデン株式会社
株式会社JVCケンウッド・デザイン
シスメックス株式会社
株式会社シナプス
株式会社島津製作所
一般社団法人重要生活機器連携セキュリティ協議会
スパイスファクトリー株式会社

ソニーグループ株式会社
株式会社たぎコーポレーション
都築電気株式会社
株式会社ツルカメ
TDCソフト株式会社
株式会社デンソー
株式会社電通総研
東京海上日動システムズ株式会社
東京デザインプレックス研究所
TOPPANエッジ株式会社
日鉄ソリューションズ株式会社
日鉄日立システムソリューションズ株式会社
日本電気株式会社
株式会社野村総合研究所
株式会社博報堂アイ・スタジオ
株式会社日立ソリューションズ・クリエイト
株式会社ファンリード
フェンリル株式会社
富士ソフト株式会社
富士フィルム株式会社
ブラザー工業株式会社
株式会社フレンセル
株式会社ミツエーリンクス
三菱総研DCS株式会社
三菱電機株式会社
村田機械株式会社
株式会社U'eyes Design

アニュアルレポート編集委員会

編集長： 脇阪 善則（HCD-Net 広報社会化事業部担当理事）
編集： 助松 裕一（株式会社荏原製作所）
森田 雄（株式会社ツルカメ）
佐伯 幸治（さらなる）
デザイン： 竹内 公啓（PUBLIX DESIGN）

